

○小林委員 私からも、今回報告のありました都政運営の新たな戦略について、何点かお伺いをさせていただきます。

初めに、大震災発生以降、復興、復興支援を初め、都政の新たな課題について今日まで全力で取り組んでいただいております、知事本局の皆様を初め関係者の皆様に心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

このたびの大震災は、いうまでもなく日本のさまざまな価値観、また倫理観、人生観など多くの問題提起がなされております。

さきの本会議における我が党の代表質問の中で、イギリスの歴史学者アーノルド・トインビー博士の挑戦と応戦の理論を引用しましたが、フランスの科学者であり、また思想家であったルネ・デュボス博士が、その著書の中で、常に変化を続ける環境に対して、人間はみずから適応しようと闘ってゆかねばならない、これは生き物すべての宿命であり、生命の法則であり、また本質そのものであるということも述べております。人類の英知を結集して、絶対に負けない、断固復興してみせるとの強い信念で、この試練を乗り越えていかなければなりませんし、なканずく政治がその役割を大きく担っていかなければなりません。

その意味において、日本の心臓部である首都東京が、日本の復興に向けてどのような役割を果たし、何を発信していくのか。そして、いかにして首都東京を災害に負けない堅固な都市としていくかが極めて重要であります。国の対応が遅々として進まない中、この未曾有の試練を乗り越えていくための東京の姿は、後世の人が模範とすべき、歴史に刻まれる都政運営をしていかなければならないと考えます。

初めに、東日本大震災発生以降、今回のこの都政運営の新たな戦略を策定するに至った経緯についてお伺いをさせていただきます。

○武市計画調整部長 東京都は、三月十一日の震災発生直後から、被災地、被災者への復興、復興支援や、都内におけます被害への対応など、当面する課題に全力で取り組んできております。

こうした初期対応でございますとか緊急対応を行いながら、そればかりではなく、あわせまして、大震災の発生という都政を取り巻く環境の根本的な変化を踏まえまして、中長期的な都政の課題と進むべき方向を明らかにする必要があるとの認識に立ちまして、三月二十九日に、こうした点を基本戦略として策定するという方針を明らかにいたしまして、先月の末に都政運営の新たな戦略として公表したところでございます。

○小林委員 この戦略の冒頭の、大震災から日本が立ち直るため首都東京がなすべきことという項目において、三点にわたってその役割が記されておりました。

まず一点目が、日本の頭脳部、心臓部である東京が、いち早く成長、進化の軌道に乗り、発展を続けることが、日本全体の活力を取り戻すことにつながります。二点目が、これからの東京の政策展開を考える上で、東京一都市のみならず、我が国を牽引する手だてを、

また地方を活性化する手だてをも、首都東京の責務としてとらえることが重要です。そして最後に、今回の大震災を教訓に、これまでの防災対策を抜本的に見直し、高度な機能を備えた災害に強いまちに東京を変えていきますというふうに指摘をされておりました。

以上のような指摘でありましたけれども、首都東京がなすべきことを実行していく上で、都政運営の新たな戦略、この位置づけについてお伺いをいたします。

○武市計画調整部長 都政運営の新たな戦略は、大震災後の都政運営の基本的な考え方でございますとか、中長期的に目指すべき東京の都市像を明らかにするものでございます。東京を新たな成長の軌道に乗せるための道筋を、三つの戦略と三段階のステージによってお示ししておりまして、今後の都政運営の基本戦略となり、また、これから策定に着手をいたします新しい長期ビジョンへのベースとなるものでございます。

○小林委員 今、ご答弁にもありましたように、東京を新たな成長の軌道に乗せるために三つの戦略と三段階のステージを示したということでございますけれども、当然のことながら、戦略の基軸となるものは、今後の都政運営の方向性として何を目指し、その実現に向けてどう取り組んでいくかということであると思います。

この都政運営の新たな戦略に、これからの政策強化のポイントが掲げられておりますが、改めてその考え方についてお伺いさせていただきます。

○武市計画調整部長 東京は大震災の影響をいち早く乗り越えて発展を続け、日本を牽引する役割を担っていかなければならないと考えております。そうした現下の状況を踏まえまして、今後の政策展開の方向性を考えた場合、やはり防災関係の施策を充実強化する必要があります。そうした点で、まず一つには、高度な防災機能を備えたまちづくり、二点目には、都民生活の安心・安全の向上と首都経済の発展、三点目といたしまして、低炭素型エネルギー政策の推進、この三点を特に充実強化するポイントとして掲げたものでございます。

○小林委員 今ご答弁ありましたように、この政策強化のポイントとして掲げられた以上は、それを目に見える形としてあらわして、現実の上で都民生活の安心、そして安全に寄与していくことこそが重要であるというふうに思います。

私もあの震災以降、地元を歩かせていただく中で、今まで経験したことのない地震、津波、そして原子力発電所の事故という事態に、多くの皆さんから不安の声をお聞きする一方、何としてもこの試練に負けず乗り越えていこうとの強い決意の声もお聞きしております。

今、都政に求められていることは、さまざまな思いを抱きながら生活をされている都民の皆さんの心の機微を敏感に感じ取って、懸命にその心にこたえていこうと努力する姿勢ではないかと思います。ぜひとも、着実な政策の実現にご努力をいただきますことを改めてお願いしたいと思います。

次に、先ほど三つの戦略の一つに、新たな長期ビジョン「二〇二〇年の東京」の策定が

掲げられております。現在、都では二〇一六年を目指して、二〇〇六年に策定されました「十年後の東京」計画に基づいて、都政を前進させてきたわけでありますけれども、今回戦略として打ち出された「二〇二〇年の東京」、そして、今までの「十年後の東京」、これらの今後の相互の関係性、また扱いについて確認をさせていただきます。

○武市計画調整部長 現在、「十年後の東京」計画に基づきまして都政運営を進めてございますが、大震災後の環境変化を踏まえまして、都政運営におきましても、政策の質的な転換を図る必要があると考えております。

このため、「十年後の東京」計画の基本理念でございますとか、主要な政策は引き継ぎながら、防災対策の強化でございますとか、エネルギー政策の推進など、大震災の教訓を踏まえた新たな課題への対応を充実強化していく、そういった観点から、二〇二〇年までを目標といたしまして、現在の「十年後の東京」にかわる新しい長期ビジョンといたしまして、年末を目途に、「二〇二〇年の東京」、この名称はまだ仮称でございますけれども、こちらの長期ビジョンを策定するものでございます。

○小林委員 この年末を目途に策定されるということですが、この「二〇二〇年の東京」という長期ビジョン、これは五十年先、百年先の東京を決定づける、極めて私、重要な計画であるというふうに思っております。全庁を挙げて計画策定に取り組んでいくことになると思いますけれども、都庁全体で取り組んでいくということは、やはり知事本局の皆様の方の果たす役割、これが大変に大事になってくると思います。

最後に、「二〇二〇年の東京」の策定に向けて、知事本局の方の果たすべき役割について確認をさせていただきます。

○武市計画調整部長 新しい長期ビジョンでは、都政を取り巻く環境の変化でございますとか、新たな課題というのを的確に反映させていきまして、今後の都政の羅針盤となっていくものでございます。

知事本局は、各局と連携いたしまして、局をまたがるような横断的な調整を行うなど、全庁的な視点から総合調整機能というものを発揮して、新しい施策をつくり出していまして、所管をする部局といたしまして、「二〇二〇年の東京」の策定に当たってまいります。

○小林委員 ありがとうございます。

この都政運営の新たな戦略の最終章、東京から日本を再生するということには、次のような言葉が記されておりました。

低迷を続けていた我が国は、さらに大きな負債を背負うことになりましたが、このまま座して死を待つわけにはいきません。国政が混迷を極める中、その底力を持っているのは、国家の中の国家ともいえるべき東京をおいてほかにありません。

私は、いずれも大変にこれは重い言葉であるというふうに受けとめました。座して死を待つわけにはいかない、東京をおいてほかにないとの覚悟とこの使命感は、これからの都政運営において、忘れてはならない大事な精神であると思います。

大事な大事なこれからの都政において、都民の生命を守り、都民の安心・安全に寄与していくとの覚悟と使命感、これをともどもに共有をし、日本を再生しゆく東京を築いてまいりたいと強く念願をいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございます。